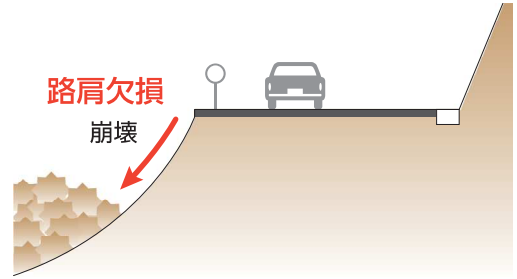


路肩欠損対策工

近年のゲリラ豪雨などによる異常気象の影響で小規模ではあるが路肩部分の崩壊が多く見られます。テラセル工は、のり面の勾配を自由に換えられ根入れも浅くできることから壁高と掘削を最小限に抑えられる利点があり、路肩欠損の対策工として優れた施工性を発揮します。



■ 路肩欠損対策工比較

工法	路肩欠損対策工		
	プレキャストL型擁壁工	テラセル擁壁工	ブロック積擁壁工
概略図			
工法原理	<p>たて壁と底版とからなり、土圧に対して、躯体自重と裏込め土砂重量で抵抗し、転倒・滑動に対し安定を図る構造である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・控え幅が大きく、路面工を傷める恐れがある。 ・掘削量も多い。 	<p>高密度ポリエチレン製の帯状シート材料をハニカム（蜂の巣）状の立体構造にしたテラセル本体を広げて、セルの中に土や砕石を入れて締固め、セル内の充填材を拘束して強度を確保することにより連続した構造体を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・控え幅が小さく、掘削を最小限に抑えられる。 ・根入れも浅く、勾配も自由に調整できるので壁高も最小限に抑えられる。 	<p>1：0.5法勾配をもたせ、直壁に応じた控え長をとり裏込め材と一体化させて土圧に抵抗させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勾配が緩いため、壁高が高くなる。
NETIS	—	KT-090023-VE	—
断面図			
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・垂直壁により、構造高としては最小高にできる。 ・躯体が大きいため、保管スペースは広めに必要となる。 ・コンクリートを使用するため養生に多少日数がかかるが躯体設置となれば施工スピードが早いので工期短縮可能。 ・他工法と比し、底版幅が広く掘削領域が大きくなってしまふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンクリートを使用しないため、工期短縮が計れる。 ・テラセルは約4kg/枚と軽量なため容易に運搬でき、コンパクトな製品納入で、広い保管スペースは必要としない。 ・トラッククレーンなどの建設機械を使用しないため、作業ヤードも最小限にでき、施工規模も最小限にできる。 ・製品の性質よりカーブ施工も容易にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック積みは積むのが難しく熟練工を要する。 ・コンクリートブロックの保管スペースは広めに必要となる。 ・コンクリートを使用するため養生に多少日数がかかる。 ・施工実績は多い。

※ふとんカゴ対策工は、設置段数の制限等により、構造上適合しない要素が大きいため、上記比較表からは除外する。

路肩欠損対策工 施工事例



施主：富山県富山市八尾総合行政センター
 工事名：白木峰市有施設管理道整備工事

■ 壁面勾配：1 : 0.4
 ■ 壁高：4.35m
 ■ 壁面積：59.9㎡



施主：愛知県豊田市役所
 工事名：豊田市道羽布町二夕瀬地内災害復旧工事

■ 壁面勾配：1 : 0.6
 ■ 壁高：6.75m
 ■ 壁面積：81.8㎡



施主：兵庫県神戸市西部建設事務所
 工事名：大日第 89 号線道路防災工事

■ 壁面勾配：1 : 0.2
 ■ 壁高：4.5m
 ■ 壁面積：40㎡



施主：新潟県魚沼市役所
 工事名：市道大白川 243 号線

■ 壁面勾配：1 : 0.3
 ■ 壁高：4.2m
 ■ 壁面積：40㎡



施主：島根県松江県土事務所
 工事名：国道 432 号外 25 線道路維持管理

■ 壁面勾配：1 : 0.6
 ■ 壁高：2.85m
 ■ 壁面積：47㎡

